

令和5年度 県立 I T 未来高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 情報活用能力や社会の諸問題を分析・解決できる能力を培うことをとおして、デジタル社会を支える I T 人財を育成する学校 (2) 生徒一人ひとりの多様な価値観や学習形態へのニーズに対応し、興味・関心に応じた進路を実現する学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・正しく物事を判断し、相手の立場を理解した上で、自分の考えや意見を伝えられる人 ・高い専門性を有し、ねばり強く価値あることの実現に向けて、チャレンジする人 ・社会の課題に関心を持ち、その解決に向けて地域社会へ積極的に参画し、貢献する人		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・教科教育の充実による I T 人財として必要な知識と技術の修得 ・キャリア教育の充実による I T 人財として生きていく力の伸長 ・外部機関との連携による最新技術等の知識の習得 ・身につけた I T スキルを活かした地域貢献の推進		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・コンプライアンス（法令遵守・社会規範・倫理観）を尊重しようとする生徒 ・情報に関する学びに興味・関心があり、継続して課題に取り組もうとする生徒 ・互いのよさを認め合い、協働してよりよい社会の実現に努めようとする生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
		一人ひとりに応じた学習指導の充実、授業改善	①一人ひとりの学習状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、普段から ICT を効果的に活用した「個別最適な学び」と「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組み、I T 人財として必要な知識と技術を修得させる。 ②I T 技術者に求められる論理的思考力とプレゼンテーション能力を育成する。 ③先端的教育ソフトウェアや e ラーニングを活用し、自律的な学習活動を推奨するとともに、学校全体で学習習慣の定着を図る。 ④生徒の授業評価における「授業満足度」の平均値 3.5 以上を目指す。 ⑤「生徒 1 人 1 台のタブレット等を活用し、学びの進め方を工夫している」教員の割合を 70%以上とする。	C
		探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育の充実	⑥「切り拓け未来」プロジェクト及び各種進路関係行事に積極的に取り組み、キャリアパスポートで振り返ることを基本とし、卒業後の進路を見通したキャリア教育全体計画を構築する。 ⑦外部機関との連携や積極的な地域貢献を推進し、それぞれの進路実現に必要な知識・技能を習得させるとともに、主体的に進路決定に向き合う態度を育成する。	C
		豊かな心の育成	⑧「公共」及び「倫理」並びに特別活動を軸として、学校のエデュエーション全	C

別紙様式 2 (高)

			体で道徳教育に取り組むとともに、基本的な生活習慣を確立し、公共心・公徳心を育成する。 ⑨ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、並びに課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。 ⑩いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図り、安心・安全な学校生活を確立する。		
		教職員の超過勤務時間の縮減	⑪業務の精選と分担の見直しを不断に行うことにより、残業月 45 時間以内、年 360 時間以内を達成する。	C	
		広報の充実	⑫県広報等を通して、学校行事等に関する事前の情報提供、事後の記事提供を行うとともに、学校ホームページを充実させ、保護者や地域の方々に本校の教育活動を積極的に発信する。	B	
		学科改編に伴う環境整備	⑬教育課程の完成年度に向けて、情報科関係の環境整備を滞りなく進める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	分かりやすい、創意工夫のある教え方を実践する。	授業の目標や課題を分かりやすく設定し、学習への意識を高める。①	B	B 生徒の実態を把握した柔軟性のある学習指導を実践することはできた。今後は協働学習など話し合いを多用した学習活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現を深めていきたい。	
		I C Tや資料等を効果的に活用したり、生徒の活動場面を適切に設けたりするなど、工夫した教え方を実践する。①⑤	B		
	生徒の様子を十分に把握し、生徒の疑問にきちんと応える。	生徒の学習の様子を把握し、適切にアドバイス（励まし）をして学習意欲を促す。①	B		
		生徒からの疑問にきちんと応じ、解決して学習成果が感じられるようにする。①	B		
	満足感を得ることができる授業を実践する。	知識や技能（技術）が身に付いたと生徒が実感できる授業を実践する。④	C		
		考えたり表現したりする力が身に付いたと生徒が実感できる授業を実践する。④	C		
言語活動を伴う活動を取り入れ、考えを広げ多様性が深まる授業を実践する。	生徒同士の話し合いや協働学習、考えを発表する場面などを設定し、考えを広げ深まる授業を実践する。①②	C			
教科	国語	言葉に対する感覚を養い、基本的な言語能力及び基礎学力の向上を図る。	多くの題材に触れさせ、情報を整理し表現することで論理的思考力を深める。②	C	C I C T機器を活用した授業を今後も充実させることで、国語に対する興味関心を高め、基礎学力の向上に努めていきたい。また、多くの題材に触れさせ、情報を取捨選択できるように指導していきたい。
			リーディングスキルテストやスタディーサポート等を通じて、個々の国語力を把握し、基礎学力の向上につながるよう、授業の工夫や改善を図る。①④	C	
		予習・復習の徹底及び課題等を通して、学習習慣を確立する。	I C Tやアプリを効果的に活用し予習・復習を徹底することで、言葉による見方、考え方を働かせ、効果的に表現する資質・能力を育成する。①③	B	
	公民	基礎学力の定着と向上を図る。	ワークノートやプリントを通して重要事項の要点を整理し、基礎的理解と定着を図る。①	A	A I C T の活用、生徒の発表の場の提供、基本的な知識技能
小テストやスタディーサポート等を通じて生徒一人一人の学力を把握し、個々に応じた指導			A		

別紙様式 2 (高)

教科			導ができるようにする。 ①④		A		の定着、外部人材の活用等、充実した授業を実施でき、目標も十分達成できた。 次年度も生徒個々の興味関心等も的確に判断しながら、効果的な授業展開に努める。
		現代社会への関心を持たせるとともに、積極的に現代の諸課題に取り組むことができるよう、授業の改善に努める。	ICT を活用し、日常生活との関連を踏まえながら生徒が課題学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。 ①⑤				
			言語活動を充実させるため、時事問題を取り上げ、最新の問題についての興味関心を引き出す。 ①②				
			目まぐるしく変化する世界情勢への関心を深めるよう努め、諸課題の解決方法に取り組む意欲関心を高める。 ①⑧				
	数学	基礎的知識及び技能、進んで学習に取り組む意欲の定着を図る。	生徒一人一人の学習に対する意識や学力を把握し、個々に応じた指導をする。 ①		B	B	習熟度別編成を実施したが、学習理解度の生徒間の差が大きく、対応に苦慮した。今後は、学習アプリ (tokuMo) 等を活用した個別最適化学習の確立を図っていききたい。 主体的・対話的な学習活動を取り入れる機会を今後増やしていきたい。
			I C T の機能を生かした学習指導の工夫により、生徒にとってわかりやすい授業を実施して学習意欲を高めさせる。 ①④⑤		B		
			適切な課題を与えて提出をさせることで、自学学習の習慣化を図る。 ③		B		
		数学的なものの見方、思考力などを養成する。	数学的な見方や考え方の良さが実感できるよう、教材や問題の精選と授業の進め方についての工夫・改善を図る。 ①④		C		
			主体的・対話的な学習活動を通して、論理的に思考して判断し、考えを表現する能力を育てる。 ①②		C		
			各種研修会や公開授業などへ積極的に参加して自己研鑽に努め、基本的な内容だけでなく高いレベルの学力も身につけることができる授業の実施に努める。 ①③		C		
	理科		令和 5 年度開講なし				
	保 健 体育	運動の合理的、計画的な実践を通して運動に関する知識を深め、かつ、技能向上をめざし、楽しさや喜びを味わえるようにし、体力向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画・健康・安全などに対する意欲を高める。	様々な運動を学習することによって運動・スポーツに対する知識を深め、生涯を通じて運動・スポーツに親しむ資質や能力を育てられるようにする。また、それぞれの運動・スポーツの特性を理解し、楽しさや喜びを味わえるようにする。 ①		B	C	体力テストの D+E 割合を減少できるよう、授業内の運動量の確保に努めたい。実技での ICT 活用方法についても、より効果的に行えるよう検討する。 健康に関する興味、関心をこれまで以上に高められるよう、養護教諭等とも連携していく。
			ICT を活用し、様々な運動やスポーツの学習から健康や安全を主体的かつ客観的に管理し、自己の能力に応じた技能・体力を高められるような資質や能力を育てられるようにする。 ①		C		
		個人、社会生活における健康安全について知識を深め、自分の健康を改善していく資質を育てる。	健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとし、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことができるようにする。 ①		C		
			健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視し、思考力・判断力・表現力を育成することができるようにする。 ①		C		
	芸術		令和 5 年度開講なし				

別紙様式 2 (高)

教科	外国語	ICTを活用して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を身につける。	ICTやアプリ等を活用して、生徒が自分自身で学習を調整できるように、自立した個別最適型学習を確立させる。 ①⑤	C	C	反転学習を前提とした授業を構成している以上、家庭学習（予習・復習）を徹底することの意識付けをする（年間を通して予習提出率が9割を超えことを目標としたい）。 生徒に、英検 IBA やスタディサポートなどの外部試験等のデータを活用させ、さらに自身の学習を調整する力を身につけさせる。 話すこと [やりとり]に関する活動をさらに充実させ、外部の大会や研修に参加する生徒が出てくるように努力する。
			外部試験やスタディサポートの活用によって、基礎力の向上を図る。 ①	C		
			ICTやアプリ等を活用し、授業内外で4技能すべての学習を自主的に行えるようにし、授業内で生徒が自己表現する活動を心がける。 ①②	B		
		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につける。	外国語の授業等を通して、実践的な英語を身につけさせ、ペアワークやグループワークの方法を工夫する。 ①②⑤	C		
			自分自身のことや社会的な話題について、英語を通じて話したり書いたりできるよう、モデルステップでの指導を行う。 ①⑦	B		
			少人数指導やALTとのTTによるきめ細やかな指導を行う。 ①②	A		
	家庭		令和5年度開講なし			
教務	情報	情報における思考力・判断力・表現力を高める。	授業時数の2分の1以上を実習に配当することで、生徒の学習意欲を引き出し、「個別最適な学び」と「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組むことで、IT技術者に求められる論理的思考力とプレゼンテーション能力を育成する。 ①②	C	C	様々なクラウドサービスを活用し、「個別最適な学び」を生徒に提供することができた。来年度に向けて、自律的な学習を更に促せるように努めていく。
		クラウドサービスを積極的に活用しIT人財として必要な知識と技術を生徒に修得させる。	N予備校、tokuMo、プログルなどのクラウドサービスを積極的かつ効果的に活用し、自律的な学習を生徒に促すことで、IT人財として必要な知識や技術を修得させる。 ①③	B		
		生徒が主体的に取り組むことができる授業の確立を図る。	生徒一人一人の学習状況を把握し、観点別学習状況についてのPDCA（授業改善）を実施する。その成果をもとに今後の学習指導に生かし、学習意欲の向上及び学習理解を深めることができる授業を実践する。 ①④	C	B	生徒が主体となる学習スタイルは徐々に確立してきた。今後は、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指す深い学習活動の確率を図りたい。 履修計画は生徒へ本校の教育課程の特徴を伝えるとともに、卒業に向けて円滑に学習期間、選択科目、コース等を決
		2年次以降の履修計画について策定する。	卒業までの学習期間（3年または4年）、希望する学習内容、卒業後の進路等を踏まえて履修計画を作成し、早い時期に生徒へ計画を提示し十分な検討を経て正しい選択ができるよう支援をする。 ⑦	B		
		教育活動の広報に努め、魅力アピールを図る。	ホームページを定期的に更新し、地域・保護者等に本校の取組みや学校行事及び進路状況等を掲載して魅力を伝え、本校に対する関心を一層高めさせる。 ⑫	B		
		情報機器の維持、校務支援システムの円滑な運用を図る	パソコン、タブレット等の情報機器の維持及び適切な管理に努める。 ⑬	B		
			校務支援システムを円滑に運用し、成績処理や帳簿等作成の効率化に努める。 ⑫	B		

別紙様式 2 (高)

	図書館の積極的な利用を勧める。	新着図書や優良図書の紹介をするなどをして、読書に対する関心を高める。①	B		定することができるような指導体制の構築が必要である。 P T Aについては生徒に還元することができる P T A 活動を目指していきたい。専門委員会活動の詳細については今後検討の必要がある。
		生徒が利用しやすい図書館となるように、環境の整備を行う。①	A		
	P T A活動の活性化を図り、特別活動後援会との連携を深める。	運営委員会・総会を通して保護者との連携を深めて P T A 活動の参加率向上を図るとともに、開かれた学校づくりに努める。 特別活動後援会による支援を依頼して本校の活性化を推進する。⑫	A		
	効率的な業務推進を図る。	資料のペーパーレス化、欠席連絡のフォーム等による対応、職員間の連絡周知の共有ドライブの活用など作業のデジタル化を進め、効率的な業務の確立を図る。⑪	C		
生徒指導	基本的生活習慣・規範意識の確立及び道徳心の涵養に努める。	生徒の身だしなみに関する意識を高め、あいさつをする習慣を身につけさせる。⑧	C	C	本年度は、各種講話に関して、外部講師を招聘しての講話を実施することができた。次年度においても外部講師を招き講話を実施したい。 毎月の生活調査といじめ防止対策会議を計画的に実施することができた。また、いじめ疑い事案が発生した際には、マニュアルに従い、迅速に対応することができた。次年度も継続していじめ対応に取り組みたい。 新型コロナウイルス感染症の影響もなくなり、充実した学校行事を実施することができた。次年度は生徒会役員や各委員会など、生徒主導で計画・実施ができるように準備を進めていきたい。
		生徒会や生活委員会等との連携し、朝のあいさつ運動など自助活動の活性化を図る。生徒の柔軟な発想で、生徒自らによる道徳心・規範意識の涵養に結びつける。⑧			
	問題行動の未然防止及び特別支援教育の充実	薬物乱用防止教室、性に関する講演会、交通安全講話、各種講話を実施し、生徒の規範意識向上に努める。⑧	C		
		各部及び年次との連携をより密にし、情報の共有化を積極的に図ることで、問題行動の未然防止・早期発見・早期解決が可能な組織作りを進める。⑧			
		HR・年次・始業式や終業式などでの講話や日常的な生活指導を行う中で、生徒の問題行動の未然防止に努める。⑧			
		特別な支援が必要な生徒への対応・配慮に努め、家庭や専門機関等とも連携・協力を図る。⑧			
	いじめの未然防止・早期発見・早期解消を図る。	スクールカウンセラー派遣事業を活用し、専門的な教育相談の充実を図る。スクールカウンセラーについては通年配置を実現し、きめの細かい指導態勢を構築する。⑩	B		
		定期的に行われる個人面談や生活（いじめ被害）調査、いじめ防止等対策会議を通じて、いじめの被害の有無を早期に確認する。生活（いじめ被害）調査は定期的に ICT を活用し実施する。⑩			
		いじめの連絡や相談を受けた場合は、速やかに対処し、解消につなげる。⑩			
		いじめの未然防止を図るため、ホームルームや学校行事、授業等を通して自己有用感や他者を思いやる心を育成する。⑩			
	ホームルーム活動と各種行事が連動して行えるようにする	生徒総会や友葵祭・クラスマッチを実施するにあたり、生徒会本部とクラス代表の円滑な連携を図り、ホームルームでの協議に積極的に取り組めるようにする。⑨	B		
		友葵祭及び生徒会誌の編集・出版を通して、生徒会の係とホームルームの連携をより一層強める。⑨	B		
		学校行事を充実させ、良好な人間関係を築く力や社会に参画する態度を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。⑨	B		
	委員会活動と学校行事の連携	委員会活動の活性化を図るため、学校行事における委員会の係分担を作成・計画し、生徒主	C		

別紙様式 2 (高)

	を模索し、生徒の活動を援助する。	体の委員会活動、学校行事の運営・活性化につなげられるよう援助する。 ⑨			
		HP を中心とした郊外への広報活動を進める。 ⑫	C		
進路指導	キャリア教育の充実と進路決定に主体的に取り組む態度の育成	外部人材による出前講座、大学、企業、地域等との連携事業を通し、進路意識を高める。 ⑦	B	C	キャリアパスポートの意義、方針、方策を教員全体で再確認し、位置づけを明確にする必要がある。 生徒の進路意識を高めるべく進路行事等を充実させる。 上級学校や企業への広報活動に努める。
		自己の変容や成長に気づき進路選択に繋がるよう、キャリアパスポートを活用する。 ⑥	D		
	基礎学力の向上と進路希望の実現	スタディーサポートを通して、個々の学習状況を把握し、学力向上のための PDCA を進める。 ①	C		
		進路実現のため個別での指導を充実させる。 ①	B		
		生徒へ適切に指導できるよう、進学や就職に関する最新の情報を教員間で共有する。 ⑦	C		
	情報収集と提供の充実	大学・専門学校等の指定校枠を獲得するため、情報収集や働きかけを行う。 ⑦	D		
		懇談会や企業訪問等を通して、情報を提供し、求人開拓に努める。 ⑦	C		
学校健康（保健厚生）	学校保健・学校安全の充実に努める。	校内の安全点検を実施するとともに学校施設・整備の安全対策を強化し、安心・安全な学校生活を送れるように配慮する。 ⑩	B	B	生徒が安心・安全な学校生活を送れる配慮が概ねできた。 健康診断は、スムーズにできた。教職員のストレスチェックは、全員が提出することができた。 清掃については、教員数の関係で全ての分担区に配置することが困難であった。 防災訓練は、消防署の協力により 2 回実施し、効果的な訓練ができた。
	生徒・教職員の健康の保持増進に努める。	健康診断の結果に基づき、生徒の健康状態を把握し、治療が必要な場合は、学年との連携を図りスムーズにできるように配慮する。保健室に来る生徒には、養護教諭が対応するとともに、基本的生活習慣の確立を図る。教職員については、健康診断等の受診に積極的働きかけ健康保持に努める。 ⑩	B		
	清掃を積極的に実施し、環境美化に努める。	清掃用具の交換及び点検を実施し、日常は、ゴミのない清潔な環境美化に務める。また、校内環境の点検を行うことにより、速やかに改善できるように配慮する。 ⑩	B		
	防災意識の充実に努める。	防災訓練を 2 回実施し、火災やその他の災害における被害を最小限にとどめ危険予測や危険回避する能力を養う。特に、防災マニュアルを作成し、防災時の対応の指針を作成する。 ⑩	B		
1 年次	主体的な基本的生活習慣の確立と実践を図る。	挨拶の励行、身だしなみ、時間や期限を守るなど基本的生活習慣の重要性を意識させ、将来、社会人として生活していくための習慣の確立をはかる。 ⑧	C	C	文化祭や生徒が計画して企画する学年行事など主体的な取り組みが見られたので、次年度も見守り伸ばしていきたい。 学習指導では生徒が主体的に学習できるようクラウドサービス等の活用を促した。次年度も生徒に応じた自主学習のスタイルを確立させたい。
		ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、並びに課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、生徒主体の学校づくりを推進する。 ⑨	B		
	探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育を充実させる。	「切り拓け未来」プロジェクトに積極的に取り組み、卒業後の進路を見通したキャリア教育を充実させる。 ⑥	C		
		外部人材による出前講座、大学、企業、地域等との連携事業を通し、進路意識を高め、IT 人材として必要な知識と技術を修得させる。 ⑦	B		
	自主的自立的な学習習慣の確立を図る。	積極的に先端的教育ソフトウェアや e ラーニングを活用し、自律的な学習活動を推奨するとともに、学校全体で学習習慣の定着を図る。 ③	C		

別紙様式 2（高）

		クラウドサービスを活用し、授業内外で様々な学習を自主的に行えるようにし、授業内で生徒が自己表現する活動を心がける。 ①②	C		新校新学年として気づいた点を次年度の 1 年次に引継ぎ事項として共有する機会を持ちたい。
	いじめの早期発見と未然防止に努める。	生活調査や生徒面談を通して、いじめの早期発見や未然防止に努める。 ⑩	C		

※ 評価規準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない